

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.15



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2015 Spring-Summer

団華紋鏡 (だんかもんきょう) 【唐】 23.7cm

写真提供 千石唯司氏



平成27年春夏号

- 特別展「地震・噴火・洪水—災害復興の3万年史—」……………2
- ◆ 企画展「夏休みこども博物館 こうこはくフィギュア展」……………4
- ◆ 古代中国鏡の至宝「千石コレクション」について……………5
- ◆ 東日本大震災復興支援職員現地報告 兵庫県と東北～復興への思いをツナゲ～……………6
- ◆ 学校連携の新たなステージへ～神戸学院大学(長期体験型) インターンシップ始まる～……………7

阪神・淡路大震災20年特別展

「地震・噴火・洪水 —災害復興の3万年史—」

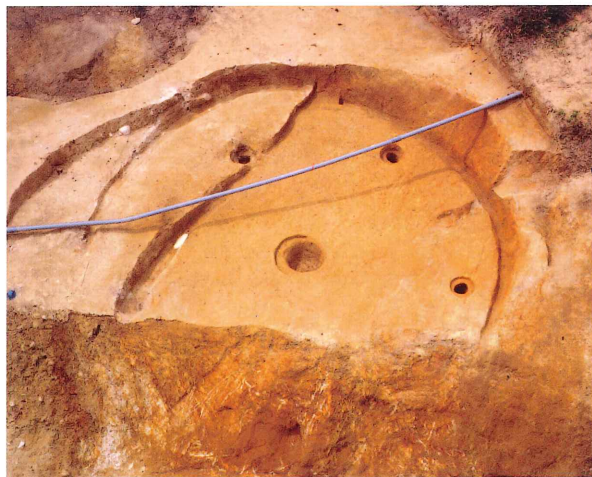
平成27年4月18日(土)～6月21日(日)

今年の1月17日で阪神・淡路大震災から20年を迎えましたが、この間にも新潟県中越地震（2004年）、東日本大震災（2011年）など、日本列島各地で大規模な自然災害が頻発しました。県内でも平成16年台風23号による水害（2004年・豊岡市等）、平成21年台風9号による水害（2009年・佐用町等）、淡路島地震（2013年）など毎年のように災害に見舞われています。

このような自然災害は遠い昔から繰り返されてきたものであり、遺跡には災害の痕跡そのものや災害からの復興を試みた人々の営みが残されています。本展では考古資料を中心とした災害関連資料から、地震・洪水などの自然災害と人間の歴史的な関係を探ります。

Ⅰ 災害を探る

災害とは地震や火山噴火、洪水などの自然現象が人間の生活にダメージを与えることであり、人間の生活範囲が広がるに伴い、自然と人間の不幸な出会いの機会は増えてきました。遺跡では地震に伴う地すべりや液状化、洪水による土砂の堆積、噴火による火山灰の堆積などの災害痕跡が見つかります。古代に文字による記録がはじまると、さらに詳細な情報が残されるようになり、遺跡で確認された災害の原因や時代・被災範囲などが特定できます。



断層ですれた弥生時代の竪穴住居（淡路市塩壺遺跡）
弥生時代後期（約1,900年前）以降の断層活動により、竪穴住居の床面が水平・垂直方向にずれている。立体剥取りを展示。

Ⅱ 地震

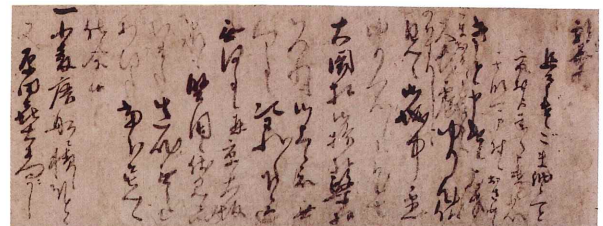
県内で大きな被害が出たことが記録に残っている地震は数多くありますが、その中でも100～200年ごとに繰り返し発生した南海地震（684年な

ど）、平安時代に播磨地域に大きな被害を出した播磨地震（868年）、豊臣秀吉が天下人であった時代に起きた慶長伏見地震（1596年）の3つが代表的なものです。

県内では約60箇所の遺跡で地震の痕跡が見つかっていますが、大半はこの3つの地震によるものです。墳砂や地すべりなどの地層の剥取り資料、地震で被災した寺院や窯跡の出土品、地震を記録した文書などから地震の被害と人々の動きにせまります。



慶長伏見地震による墳砂（神戸市玉津田中遺跡）
砂礫層が液状化しており、強い揺れがあったことがわかる。



慶長伏見地震を伝える加藤清正の手紙（大坂城天守閣蔵）
「地震加藤」の話のもとになった清正が国元（肥後）の家臣にあてた手紙

Ⅲ 噴火

火山が集中する日本列島では、各地で火山災害の跡が見つかっています。群馬県金井東裏遺跡では火砕流に巻き込まれた「甲冑を着た古墳人」が見つかっており、その写真などから火山災害の脅威を紹介します。

県内でも約29,000年前に鹿児島県始良カルデラから噴出した火山灰が各地の遺跡で見つかっています。但馬地域では神鍋山などの火山地形が見られ、そこには多くの縄文遺跡が残されています。これらの資料から火山と人間のかかわりにせまります。



始良カルデラの大噴火で飛来した火山灰（丹波市七日市遺跡）
黄色い層が火山灰。約20cmの厚さがあり、旧石器時代の地表面を覆っている。

Ⅳ 洪水

洪水や土砂災害は人間に最も身近な災害です。低地にある多くの遺跡では、幾層にも重なった土砂の堆積が見られ、洪水被害が頻繁にあったことがうかがえます。神戸市玉津田中遺跡や同住吉宮町遺跡などの調査成果から、弥生時代から現代に至る洪水被害と復興の歴史を読み取ります。



洪水で埋もれた弥生土器（神戸市玉津田中遺跡・県指定文化財）
弥生時代中期（約2,100年前）におきた大洪水によって、村の水田と墓地は厚い砂の下に埋もれた。特別な建物から砂に埋もれた巨大な土器が出土した。

Ⅴ 防災・減災への試み

洪水を防いだり地震に強い建物を建てたり、技術の進歩は災害に立ち向かう力を人間に与えました。しかしその力には常に限界があり、その時人々は神仏に祈りました。縄文時代から現在に至る防災・減災への試みを技術と信仰の両面からたどります。

Ⅵ 災害と復興の3万年から学ぶこと

過去の歴史を振り返ると、災害と復興が幾度も繰り返されてきたことがわかります。災害のリスクを避けるか、生活の利便性を優先するのか、危ういバランスを取りながら人間は歩みを進めてきました。

自然現象と人間が不幸な出会いをしないために、本展を通じて過去に何が起きたのか知っていただき、未来の災害に備えて何ができるのかぜひ考えてみてください。（学芸課 多賀茂治）

《展覧会関連情報》

【講演会】

会場／当館講堂
時間／13:30～15:00（12:50より整理券配布）
定員／120名 参加費／無料

4月18日（土）

「災害考古学への招待」

多賀茂治（当館学芸員）

5月9日（土）

「地震考古学から21世紀の兵庫の地震を考える」

寒川 旭（産業技術総合研究所客員研究員）

5月23日（土）

「地形環境と人の暮らし」

青木哲哉（立命館大学非常勤講師）

6月6日（土）

「火山災害と金井遺跡群」

桜岡正信（（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査2課長）

【公開シンポジウム】

「災害考古学の可能性を探る」

日時／5月30日（土）10:00～16:00
（当日受付、9:30より整理券配布）

会場／当館講堂 定員／120名

参加費／無料

パネラー／

高橋 学

（立命館大学環太平洋文明研究センター・歴史都市防災研究所 教授）

森永速男（兵庫県立大学防災教育センター教授）

甲斐昭光（当館学習支援課長）

多賀茂治（当館学芸員）

コーディネーター／

山下史朗（兵庫県教育委員会文化財課副課長）

【防災ウォーク】

「神戸の災害と遺跡を訪ねる」

日時／6月7日（日）10:00～15:00

行先／神戸市東灘区・灘区（JR住吉駅～JR灘駅）

定員／30名、要申込み

参加費／200円（保険代・資料代）

【体験イベント】

・「GWこども考古学ひろば」

日時／5月4日（月・祝）～6日（水・休）
13:00～15:30 参加無料

・「古代人に学ぶ防災グッズ」

日時／5月24日（日）10:00～12:00
定員／20名 要申込 参加費／300円

【展示解説】

会期中の毎日曜日 13:30～14:00

【博物館ボランティアによる朗読】

「災害と復興の絵本を読む」

会期中の土・日曜日 13:00～13:30 無料
※5月2日、3日は除く

企画展予告

夏休みこども博物館 こうこはくフィギュア展

平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

「フィギュア“Figure”」とは英語で「人の形を模したものの」の意味です。現在ではプラスチックや塩化ビニールで作られたものが主流で、玩具や調度品として子供から大人の間まで広く愛好されています。

日本で人の形を模したフィギュアが子供の玩具や調度品として広く親しまれるようになったのは、意外に新しく、江戸時代に出現した土人形がその原形です。江戸時代に酒造業で栄えた伊丹市の伊丹郷町遺跡からは大量の土人形が出土しています。

江戸時代の土人形より前にも、人のかたどったものは県下の遺跡から数多く出土しています。



土人形 伊丹市 伊丹郷町遺跡出土

古く縄文時代では淡路市の^{つくだ}佃遺跡から土偶が、同市^{としま}富島遺跡からは土面が出土しています。古墳時代の出土品では人物埴輪が有名ですが、小野市の^{かつての}勝手野古墳からは相撲をとる力士や狩猟する人物像を貼り付けた装飾付須恵器が出土しています。その後の古代の遺跡では、豊岡市の^{はかざ}袴狭遺跡から細長い木の板に刻みを入れて、頭や手足を表し墨で目鼻を描いた人形^{ひとがた}が大量に出土しています。



力士像 小野市 勝手野6号墳出土

今回はフィギュアのルーツとなった縄文時代から江戸時代の様々な「人の形を模したもの」を通じて、子供だけではなく大人の方にもより楽しく親しみやすい展示を企画しました。さらに、この展覧会を通して、昔の人々がどのように自分たちの姿をかたどってきたかを概観するとともに、フィギュアに託した願いについても考えます。

人形 加古川市 ^{しらさ}白沢5号窯出土

(学芸課 岡田章一)

◆ 展覧会関連情報 ◆

● クイズ&スタンプラリー

会期中の日曜日 13:30～15:00 定員／50名 ※要観覧券

古代中国鏡の至宝「千石コレクション」について

平成26年度に千石唯司氏より寄贈・寄託を受けた古代中国鏡を中心としたコレクションは、質量ともに国内有数のものです。この資料については学術的な調査研究を行なうとともに、平成28年オープンをめざして加西市の県立フラワーセンター内に展示施設の整備を進めています。

千石コレクションとは

当コレクションは、加西市在住の美術品蒐集家、千石唯司氏（株式会社千石 代表取締役社長）が30年以上にわたり蒐集されてきた、315面の古代中国鏡を中心とします。

その内容は、中国で銅鏡が使用され始めた二里头文化期（約4,000年前）から春秋戦国時代、そして漢代と唐代を中心として宋代（約1,000年前）までにわたる時代を、連続的そして網羅的に覆うものであり、鏡の文化を知る上で極めて重要な資料となります。また、遺存状況も極めて良好であり、歴史的にも美術的にも高い価値を有しており、世界的な銅鏡コレクションと位置づけられることは疑いありません。

古代中国鏡の歴史

古代中国の銅鏡は、殷周青銅彝器（祭祀用の容器類と楽器類）とならび顕著な発達を遂げた、古代中国文明を代表する金属工芸品です。その精細な紋様や華美な図像、そして精良な材質や巧緻を極めた鑄造技術は、他に比類のない工芸品であり、古来より銅鏡の研究や鑑賞、蒐集が続けられてきました。

銅鏡は、光を反射させるという金属のもつ性格を利用して作られた、主に銅と錫の合金としての青銅製品です。中国では新石器時代の終わりに製作が始まり、戦国時代に本格化し、漢三国時代に隆盛を極めました。その後も、姿を変えながら唐代にも華やかな鏡文化を花開かせていきます。

日本では、弥生時代に輸入され、それらを模倣しつつ国内でも製作を行ないました。2世紀の終わり頃には、青銅の鐸や武器に取って替わり、鏡が権威や祭祀の主座を占めることになりました。

（埋蔵文化財課 種定淳介）



① 緑青石象嵌鋸齒縁鏡【二里头（夏）】21.8cm

② 鍍金画紋帯対置式神獸鏡【後漢】14.9cm

③ 螺鈿宝相華紋八花鏡【唐】30.5cm

【写真提供：千石唯司氏】

① 約4,000年前の二里头文化期の鏡です。周縁は鋸の歯のような刻みがあり、その内側に左右対称の「人」形のヒレを伸ばした緑青石（トルコ石）を象嵌しています。中国最古の銅鏡と位置づけられる可能性が極めて高いと考えられます。

② 神仙思想の世界観を表現した鏡で、西王母と東王父、琴を弾く伯牙とそれに聴き入る鍾子期や黄帝などの神像と四つの獣像が表現されています。獣像の身体には水晶玉が象嵌されていた痕跡を残しています。全面に鍍金を施し、神獸鏡の中でも最高級品となります。

③ 紋様を彫り込んだヤコウガイに赤い琥珀を埋め、周囲にトルコ石やラピスラズリの細片を散りばめて、全体を研磨して仕上げた豪華な鏡です。素材の色彩の変化が優美で、正倉院に伝わる螺鈿鏡に類似しています。

東日本大震災復興支援職員現地報告

兵庫県と東北～復興への思いをツナグ～

東日本大震災の復興事業に関連する埋蔵文化財の発掘調査を支援するため、平成24年度から当館職員が派遣されています。

平成26年度は岩手県と宮城県に派遣されています。職員から現地報告が寄せられましたので、ご紹介します。

岩手県教育委員会派遣

柏原正民さんからの報告

岩手は、季節の移ろいが駆け足です。

残雪に震えた4月。梅・桃・桜が一斉に咲いた5月。木漏れ陽がまぶしかった6月。人生初？の「暑っ!」と口にできなかった7月。

8月の短い夏が終わると、9月の紅葉が10月には落ち、11月半ばに冬がやってきます。雪と寒さに耐えて、静かに春の訪れを待つ時季です。

駆け足の季節とともに生きる岩手の人々。厳しくも豊かな自然を受け入れ、暮らしを営む姿は、縄文時代から続く文化なののでしょうか？東日本大震災を乗り越え「ふるさとと共に生きる」強い気持ちにも、つながっていると感じます。

営みを取り戻すには、多くのエネルギーと時間が必要です。発掘調査を通じて、速やかな復興に寄与できれば・地域を知る手がかりが見つければ…と思い、仕事をしてきました。

もうすぐ季節も一回り。ふるさとを思う岩手の人々の気持ちに、「寄り添い続ける」覚悟で、派遣の任務を全うする所存です。



大槌町 町方遺跡住民説明会

宮城県教育委員会派遣

垣内拓郎さんからの報告

2014年4月から宮城県に派遣され、担当調査地は、甚大な津波被害を受けた女川町と石巻市でした。女川町では^{うちやま}内山遺跡・^{さきやま}崎山遺跡・他2遺跡を、石巻市では^{たちばな}立浜貝塚・他1遺跡を担当しました。中でも、崎山遺跡では女川町初の奈良時代の竪穴住居が検出され、現地説明会の参加者数110名のうち約6割が町民で、地元の関心の高さが嬉しかったです。ほとんどの調査地点が、防災集団移転地にあたり、各市町・宮城県職員を中心に他県の派遣職員と協力し合い、復興に遅れないよう努め、調査は無事に終了することができました。

復興する女川・石巻が、力強く生活を取り戻し、新しく創り出す姿には、自分が復興支援とした発掘調査や成果に、もっと復興の為の何か創造的な可能性はないのか考えさせられました。地元の崎山遺跡への関心の高さが、復興が創る新しい地域文化への糸口かもしれません。少しでも早い復興を祈念し、微力ながら応援していきたいと思えます。



女川町 崎山遺跡現地説明会

学校連携の新たなステージへ ～神戸学院大学(長期体験型) インターンシップ始まる～

◆学校教育に関係する連携事業◆

当館では、平成19(2007)年の開館以来、学校教育との連携(博学連携)を深めることを目的にさまざまな取り組みを行っています。専門的な知識、情報、資料・施設を学校により有効的に活用して頂くため、平成26年度に考古博が実施した取り組みをご紹介します。

①博物館での見学・古代体験で学びを深める

4月から6月にかけて東播地区(明石市、稲美町、加古川市、高砂市、播磨町)や神戸市を中心にたくさんの小学生が校外学習にやってきます。平成26年は、その3ヶ月間で119校10,880人の小学生が来館しました。そのうち、古代体験として57校4,415人が勾玉・石包丁づくり、火おこし、ループ組紐に挑戦しました。

②学校への出前授業

4月から5月の繁忙期を除いて、学校での授業に職員が講師として教室に出向きます。博物館の事前・事後学習として、子どもの興味・関心を高め、学習意欲の向上を図りたいといった希望がある場合、ゲストティーチャー、もしくは先生とのチームティーチングにより、博物館での学びを支援しています。



出前授業の風景(加古川市立東神吉小学校)

③短期体験型の職業・職種・職場体験の受け入れ

中学生(トライやる・ウィーク)や高校生・大学生(インターンシップ)が博物館での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人ひとりが自分の生き方を見つけられるような活動を支援しています。

【平成26年度受け入れ校】※博物館実習等は除いています
・中学校(2市1町の9校)・高等学校(県立3校)

・特別支援学校(高等部1校)・大学(1大学)

④その他の学校連携(赤米をつくろう)

(播磨町立蓮池小学校、県立農業高校、県立東はりま特別支援学校、国立明石工業高等専門学校)

⑤教員セミナー及び初任者研修

小・中・高校の現職教員を対象に、授業で使える知識や技術の習得を目的とした教員セミナーを2回実施し、23人が参加しました。また、東播地区の小・中の初任者教員全員(107人)を対象に博物館の利用の仕方、学びの深め方の研修を講義とワークショップ形式で実施しました。

◆神戸学院大学インターンシップ(長期体験型)◆



神戸学院大学の学生が企画・運営したスタンプラリーの受付風景

平成26年3月、博物館という教育資源を有効に活用させ、将来の世代が地域社会に資する存在となるため神戸学院大学と連携協定を結びました。

この協定により、平成26年度より前期・後期に分かれた正課の授業として開講しました。前後期で11名の人文学部の学生が新たな視点での教育支援活動やイベントの開催を博物館ボランティアと共に取り組み、各種古代体験の補助やスタンプラリー「考古博マスター」への道やワークショップ「どんぐりを食べてみよう」を企画、運営しました。

受講した学生の一人は、「この講座で臨機応変に対応できる判断力、行動力の必要性を感じた。課題に取り組み、解決する力を博物館ボランティアさんと話をする中で伸ばせた」と感想に記していました。

これからも、当館では学校の要望や時代のニーズに応えた多様な活動を展開させ、「学校と共に学ぶ博物館」を目指して行動していきたいと思えます。
(学習支援課 浅野晋司)

4月

イ	12	日	バックヤード見学ツアー
展	18	土	特別展「地震・噴火・洪水-災害復興の3万年史-」開幕
講	18	土	特別展講演会「災害考古学への招待」 多賀茂治(当館学芸員)
イ	29	水祝	播磨町健康福祉フェア [共催事業]

5月

イ	3	日祝	HaRiMa Music Carnival VII [共催事業]
イ	4	月祝	GWこども考古学ひろば
イ	5	火祝	GWこども考古学ひろば
イ	6	水休	GWこども考古学ひろば
講	9	土	特別展講演会「地震考古学から21世紀の兵庫の地震を考える」 寒川 旭(産業技術総合研究所客員研究員)
イ	10	日	バックヤード見学ツアー
講	23	土	特別展講演会「地形環境と人の暮らし」 青木哲哉(立命館大学非常勤講師)
体	24	日	古代人に学ぶ防災グッズ
講	30	土	公開シンポジウム「災害考古学の可能性を探る」 [パネラー]高橋 学(立命館大学環太平洋文明研究センター・歴史都市防災研究所教授)/森永速男(兵庫県立大学防災教育センター教授)/ 甲斐昭光(当館学習支援課長)/多賀茂治(当館学芸員) [コーディネーター]山下史朗(兵庫県教育委員会文化財課副課長)

6月

講	6	土	特別展講演会「火山災害と金井遺跡群」 桜岡正信((公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査2課長)
体	7	日	防災ウォーク「神戸の災害と遺跡を訪ねる」
体	7	日	赤米をつくろう ~田植え~
イ	21	日	バックヤード見学ツアー
展	21	日	特別展「地震・噴火・洪水-災害復興の3万年史-」開幕
イ	27	土	再現!古代のまじない-ひとがた流し-

7月

講	4	土	兵庫考古学研究最前線2015「古墳時代の甲冑」 渡瀬健太((公財)兵庫県まちづくり技術センター技術職員)
イ	5	日	バックヤード見学ツアー
展	18	土	企画展「夏休みこども博物館 こうこはくフィギュア展」開幕

- 「テーマ展示解説」は特別展、企画展開催期間中を除く日曜日に実施。13:30~14:00
- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30~14:00
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30~15:30
- 体験講座は事前予約が必要です。TEL079-437-5564(学習支援課)

7月

イ	20	月祝	考古博DE夏まつり
イ	23	木	バックヤード見学ツアー
体	25	土	自由に土器をつくってみよう
講	25	土	兵庫考古学研究最前線2015「ゆるキャラ?フィギュア?縄文土偶・土面の謎」 深井明比古(当館学芸員)
体	26	日	キラリ!ガラスまが玉づくり
イ	26	日	クイズ&スタンプラリー

8月

体	1	土	ハニワくんをつくろう
体	2	日	ワクワク! 和同開珎をつくろう
イ	2	日	クイズ&スタンプラリー
イ	5	水	バックヤード見学ツアー
体	8	土	自由に土器をつくってみよう
体	9	日	ウキウキ! 藍染め体験 一藍の魅力を知らう
イ	9	日	クイズ&スタンプラリー
イ	16	日	クイズ&スタンプラリー
講	22	土	兵庫考古学研究最前線2015「近世墓出土の土人形-伊丹郷町を中心に-」 岡崎正雄(当館学芸員)
体	23	日	強力パワー! 子持勾玉づくり
イ	23	日	クイズ&スタンプラリー
イ	26	水	バックヤード見学ツアー
体	29	土	ゆらゆら動く ハニワのモビールづくり
体	30	日	本格勾玉づくりに挑戦!
イ	30	日	クイズ&スタンプラリー
展	30	日	企画展「夏休みこども博物館 こうこはくフィギュア展」開幕

9月

体	13	日	赤米をつくろう~観察会&石包丁づくり~
講	19	土	兵庫考古学研究最前線2015「館長講演会」 当館館長
体	22	火休	子持勾玉でアクセサリーを作ろう(上級編)
イ	27	日	バックヤード見学ツアー

講…講演会 体…体験講座 イ…イベント 展…展覧会

■イベントについての詳細情報は当館ホームページ・チラシでご確認ください。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.15 2015 Spring-Summer

発行年月日 平成27年3月17日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

(HP) <http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

(BLOG) <http://koukohaku.blogspot.jp/>

最新情報はホームページ・スタッフブログをごらん下さい。

●電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分

山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分

●お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km

■駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)

■休館日/月曜日(祝休日の場合は翌平日)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

